



館報 まつかわ

まつかわ百景<sup>®95</sup>

部奈の大堤

平成29年 元旦  
松川町公民館報 第639号



川瀬八十治  
清源地 1期

公民館活動へ積極的な参加を最近では年を重ねたせいかな分館の事業に参加する機会がめっきりと少なくなってきました。

運動関係では、体力的な差がはつきりと出てしまい、結局は若い人におまかせの感があります。社会部の事業でも

同じ様になっていくのが現状ではないでしょうか。

自分は年寄りだからと云う概念を捨て、若い方達と楽しむことで健康にも繋がると思っています。色々ある中で自分に合う事業を探して、積極的に参加する様に努力をしたいものです。

松川町議会議員選挙を終えて11月13日に、平成20年以來の町議会議員選挙が行なわれました。定数14名に対して16名の立候補となった訳であります。前回の投票率と比較しますと約14パーセントもの低い結果となりました。当日の有効投票数は前回より65票

増えただけですが、全体で約1560人もの方が選挙に行かなかつたと云う結果となっています。

無投票で決まる町議選は絶対に駄目だと云う声が沢山ありました。この様な結果に対してどんな要因があるのか、考えさせられる選挙でした。



佐藤 史人  
松川 1期

公民館活動は、地域の住民の「生涯学習」と同時に、町政の課題を発信していく役割を持つていると思います。

昭和50年代の町内は、集落単位で婦人会若妻会の学習会が連夜行われ、公民館研究集會を拠点として、社会部・体育部・

編集部の各部の活動や、各地区の公民館協議会を拠点とした分館の活動が盛んで、社会教育主事や生活改善普及員が活躍し、まさに、松川町が公民館活動の「聖地」だったのです。

「えみりあ」誕生を期に、住民と町が公民館のあり方を

考え、変えていく時です。

将来、交流人口を増して住んで良かった街づくりをするためには、まず私たちが松川町のいろんなコトを知ることなのです。公民館の「地域を知る講座」も住民提案型にし、テーマによってはワークショップ

プも含め、学習・教育の比重や、親子孫の三世代が参加できる工夫も大事です。松川町には、いろんな「引き出し」を持った人がいっぱいいます。私の仕事は、この「引き出し」を探して、開けてもらうことから始まります。



米山 郁子  
北垣外 1期

長野県では現在信州のおもてなしを日本一にすることを目指して「ずく出し、智恵出し、おもてなし」プロジェクトを実施中です。私も信州おもてなしマイスターとして活動に協力しております。おもてなしには三要素があります。

①ふるまい(笑顔・挨拶・気ばらたき)人に接する態度②よそおい(第一印象・身だしなみ)③しつらい(こころ良い空間づくり・地域の美化)もてなしのステージをつくることです。この3つの要素を相手の心に自分の心を寄り添え、

準備して整えること、それを「おもてなし」ということです。公民館活動は地域の活性化、住民同士のコミュニケーションの場としてまさに「おもてなし」を実践されている素晴らしい場であると思います。

新人議員としておもてなし

の心を持って松川町のまちづくりの将来像である「いっしょに育てよう一人ひとりが輝く笑顔あふれるまち まつかわ」を目指し、ご指導ご鞭撻を賜りまして、町政の様々な課題に取り組んでまいります。宜しくお願い申し上げます。

# 新町議会議員さんにお聞きしました!!

11月13日に任期満了に伴う松川町議会議員一般選挙が行われました。14人の当選された議員の方たちに「公民館活動について」「松川町政の課題について」の2点についてお聞きしました。



黒澤 哲郎  
宗源原 3期



菅沼 一弘  
北垣外 2期



中平 文夫  
城北 1期



大蔵 洋  
柄山 1期

住民のニーズに即した活動を！  
地方分権の名のもとに公民館制度が出来て70年。長野県は県民風土もあり全国でも突出した数の公民館が設置されている。松川町の公民館活動も先輩諸氏の働きと努力により今日に至っている。此の度改築された中央公民館には社会

明けましておめでとうございます。  
昨年は町制60周年記念事業が盛大に挙行されました。今年には70周年に向けて第一歩となる最初の大事な年です。さて今回、議員になって「縁を大切に」する地域社会

元気な地域社会の実現を  
明るく希望をもって安心して暮らせる町、豊かで活力のある町を目指し、生活基盤の構築と充実を図ること。  
少子高齢化に対応した福祉行政と子育て支援と教育環境づくりにより青少年の健全育成を、また、幼児からお年寄り、障がいを持つ人も持たな

公民館活動について  
当町の歴史ある公民館活動は、新しい中央公民館の完成と共に新たな時代に合った活動に変化していかねければと感じる。戦後70年が経過し人々の生活も変わった。先日電車で飯田まで行ったときのこと、車内のほとんどの人が

教育・文化・芸術・各種サークル活動の場として住民のニーズや時代の趨勢に合った企画・運営が求められる。地区協働・地区館については高齢化や生活・思想の多様化により、活動部員の確保に困窮する地区も発生してきている。抜本的な見直しの時期かと思われる。

「縁を大切に」を大きな目標に活動をしていきたいと思えます。  
縁あって、せっかく松川町に住むようになった皆さんが「住んで良かった」と思える町にするにはどうするかを考えます。行政と区、自治会は強力なパートナーシップで結

い人も共に支え合い「福祉の向上」に努めていきたい。  
いよいよよりニア時代を迎えインフラ整備や幹線道路の充実と共に、三遠南信道の開通で近い将来私達の故郷が激変する可能性が高い。首都圏への一極集中で顕在化し、いろんな課題が浮き彫りになっている。基幹産業である農業特

スマートフォンを使っているのである。何か異様な雰囲気と感じたのは、たまに乗った私だからなのでしょうか。公民館活動も変えていくものと残した方がいいもの、そのバランスが難しそうだ。  
町政の課題について  
与えられた文字数では書き

積極的な人事改革を！  
深津町政も6年目を迎えたが、青年の家・旧東小学校の後利用や観光局(仮称)の法人化・リニア残土受入等々課題が山積し、厳しい舵取りが求められている中、国・県の施策への対応等を含め職員への負担が益々大きくなってきて

ばれていきます。「区や自治会の活動なくして行政は成り立ちません。しかしこの事を認識されずに、これが「当たり前」と思っているのが現状です。今後、区や自治会の骨太の活動を推進するにはどうすればよいか、多方面にわたり、提

に果樹産業を守るべき後継者不足に悩まされ不安が募るのではないかと考えます。後継者が高齢化したなどの理由により、耕作を放棄した土地が随所に見られ、そのまま放置するならば、豊かな自然と環境が破壊されかねない。  
今後行政として何が出来るか町民皆様で考え話し合い、こ

きれないテーマ。今、町行政は病にかかっていると警鐘を鳴らしている。自ら気付いていないうちに病は進行する。現れた症状は氷山の一角、対処療法では見えない部分の病巣は根絶できない。なぜ病になつたのか。早く優秀な専門医に治療計画を立ててもらいたい治療

いる。職員の定着率の向上やパワハラ根絶を計る上からも効率的な組織運営が求められている。公務員には種々規制があるが、幹部職・専門職への外部採用や有能な臨時職員の正規職への登用の拡大等従来の枠組に囚われない積極的な人事改革が必要と思われる。

案、提言していきたいと思えます。公民館活動、少子化対策、防災対策、高齢者対策等すべてにおいて土台となる事案と考えます。宜しくお願ひします。

の時代を乗り切つて松川町を守つていかなければなりません。各人が町の行政に関心を持ち、自分達が何が出来るか発想と知恵を出し合い、共に町の未来について語りあつてほしい。

を開始しないと手遅れになる。病にならない取り組みと同時に緊急かつ継続的な処置が必要では。そしてマンパワーを補給し健全な体力を取り戻すことが第一と思う。



島田 弘美  
名子北部 3期

**社会教育の重要な機関として  
公民館に期待**  
新装公民館ロビーは開放感が漂う、新に情報発信基地としてのチャンネル・ユースタジオが目を引く。子どもからお年寄りまで様々な年齢層が出会いふれあい利用、サークル活動の紹介など住民に理解を深める役目を担っている。

学習には生涯終りはない。多くの方々との交流は新たな思いを創生させまわすづくりの道へつながると思う。全ての住民が気軽に立寄れる場として「集い」「ふれあい」づくりの期待と社会環境の変化に対応する社会教育の重要な機関として一層の発展を期待しています。

**「元気で安心安全」なまちづくりのために**  
今地方は少子高齢化、人口減少問題等様々な影響が危惧される。安定財政の確保、地域、自治体の活力維持の可否に黄信号がともる。「元気で安心安全」のまちづくりの柱は農商2連携の産業振興の成長戦略に力と考える。

産業活力は地域経済の向上、財政の安定、雇用機会の拡大、定住対策、教育、子育て、福祉等々の充実など効果期待と町全体の底上に期待されるからだ。またリニア新時代に対応した地域づくりや広域も視野に多くの住民の声を反映した取り組みが必要と感じている。



米山 俊孝  
本町 3期

**公民館活動について**  
公民館活動は地域住民の学習意欲に応えたり、サークル活動の支援など様々な要望に応え、日頃よりその活動は大変なことと思います。時代とともに生活環境や個人のニーズも変化する中で活動は様々な葛藤もあることと思います。

しかし公民館事業に参加されている皆様にとりましては、よりどころとなる公民館活動があつてこそ成り立つことでもあります。行政にも理解をいただき今後も課題を乗り越え活動に取り組んでいっていただきたいと思います。

**松川町政の課題について**  
松川町政の課題は、財政健全化法による示された基準指数の対応に追われ、人材のバランスがとれた改善ができなかったこと。地方分権によりその業務を遂行するための業務容量に対する対応が間に合わなかったこと（マンパワー

の不足）が悪い循環となつて、管理面においても手が回らない部分が出てしまっているのではないかと思います。働く職員に「達成感を感じる余裕」ができ、笑顔が見える職場でなければならぬのではないかと感じております。



熊谷 宗明  
増野 3期

公民館は「地域のお茶の間」であり、「住民の幸せを増やすお手伝い」をする大切な役割があります。何でも言い合える健やかな地域社会づくりを進めるには「公民館活動の充実」が最も重要です。主体的な活動を支援すると

共に、中核的人材を育成するために「若者が集う公民館」への事業展開を更に図っていく必要があります。そのために、学びを支え保障していく環境整備を推進し、「えみりあ」への求心力を高める努力をします。

我が故郷に若者は4割しか帰ってまいりません。子ども達が残り、帰って来れる環境づくりをするために、愛郷心を育む教育を学校と地域が協働して行い、人とのつながりを深めていく醸成活動を進め、未来ある子ども達が笑顔で夢

を語れる社会をつくってまいります。  
持続可能な農工商の発展には担い手の確保が不可欠です。仲間と学び合える学舎創設によって定住促進を図ります。また、みんな一緒に支え合う福祉の充実に努力いたします。



坂本 勇治  
福沢 3期

**健康長寿一位を目指して**  
昨年の町議会の改選により社会文教委員長の重責を担わせていただくこととなりました。浅学非才ではありますが、皆様のご期待に添えますよう努力してまいります。  
長野県は平均寿命で全国一

位が続いていますが、健康寿命においては、16位です。町の医療費は他町村と比較すると低い方ですが、毎年3%、5%上がっているのが現状です。住民の皆様の健康寿命を上げることが、国保をはじめとしたさまざまな問題の低減

に繋がると考えています。町でも「コミュニケーションカフェ」をはじめとした様々な取り組みをしています。町民主体の「健康を考える集会」も今年で41回目を迎えようとしています。公民館事業においても、スポーツはもちろん、文化芸能の事

業も、健康長寿の大事な取組みだと考えています。そういった課題に皆様と共に知恵を絞って参る所存です。生涯現役で生産人口で生きられるために頑張ります。最後に皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。ご挨拶いたします。



間瀬 重男  
滝ノ沢 3期

町民の憩いのオアシスとして  
待望の松川町中央公民館  
「えみりあ」が完成オープン  
され誠にめでとうございま  
す。各地区公民館では、自主  
的自発的に住民生活をもちあ  
げていく活動がされているこ  
とは我が町の誇りであります。  
行政と住民の接点としてその  
中枢を担う中央公民館がチャ

ンネルYOU併設のかたちで  
建設された。急激な社会の変  
化の中で生涯教育や健康管理、  
身近な学習の場また常設文化  
の殿堂、情報発信基地とし、  
町民の笑み溢れる憩いのオア  
シス、有効活用されますよう  
心からご期待申し上げます。

リニア新時代に向けた取り組  
みをどうする  
8年前リニア推進を公約に  
掲げた。10年後実現に向け動  
き出した。当時大きな課題北  
部火葬場、統合保育園等苦し  
みながらも解決してきた。リ  
ニア効果もあり宮ヶ瀬橋も進  
捗、南信州は大きな活力のな  
かで大きく変貌していく。東

京、関西、外国からのお客様  
をどうおもてなししていくか  
が課題だ。最大の観光資源の  
果樹園を太陽光発電所にして  
はならない。この町に埋蔵し  
ているあらゆる観光資源の発  
掘、産業振興や福祉政策はも  
とより、この4年間が正念場、  
開かれた議会を目指し尽力し  
て参りたい。



松井 悦子  
上町 4期

公民館活動の本来の目的は、  
住民の教養の向上、健康増進、  
情操の純化、生活文化の振興、  
社会福祉の増進に寄与する事  
とある。  
この、目的が偏ることなく、  
均衡のとれた活動となるよう、  
知恵を出し合いたいと思う。現  
状を見ると、スポーツにやや

偏りがちに思える。田舎ゆえ、  
町民が音楽や学術、文化に触  
れる機会が非常に少ないので、  
その点を公民館がしっかりと力  
バーできれば良いと思う。  
町政についてですが、私達  
の誇れる郷土の美しい景観が、  
太陽光発電所の出現で壊され  
つつあることは、誠に切ない

思いがある。  
行政の公平な施策により、  
改善策が諮られるよう、切に  
願います。国保税や介護保険  
料は加入者負担の限界を超え  
ている。町政の責任に於いて、  
負担の軽減をはかる必要があ  
ると思う。  
町民が隅々まで福祉の恩恵

を受けられ、不安な事、困つ  
た事があれば、役場へ連絡す  
れば解決してくれるという安  
心感を持てる、そんな町政の  
実現が高齢化の進行に伴い、  
一層求められると感じている。



森谷 岩夫  
上町 3期

今松川町には課題が山積し  
ておりますが、そのなかで基  
幹である果樹産業のこれから  
について私の思いを申し上げます。  
100周年の昨年、101年目  
からの果樹産業の議論があら  
りありませんでした。私は高  
齢者の方々がリタイアした後

が心配でなりません。それを  
補うために、全国から果樹産  
業に思いを寄せる若人を募集  
し、松川町で就農させる道を  
示す方策を、全国に発信する  
ことが急務だと考えています。  
それにはどうすればよいのか。  
まず当座の生活費、住む家、

技術取得のための手助け、実  
務を積んで3年から5年後に  
リタイアされる果樹農家を丸  
ごと借り受け、自分の生活基  
盤を築く。貸し出した高齢者  
は月々貸し賃をいただく。自  
分の子どもでなくてもいいん  
です。六次産業化や法人化も

進めながら、家族労働の果樹  
農家も生かす道を探っていく。  
よその産地よりも早く。実現  
のために議会で頑張っていく  
覚悟です。

# 新町議会議員さん

## お考えを聞かせていただき

## ありがとうございます

新しい公民館ができ、新た  
な気持ちで公民館活動が再ス  
タートしました。私たちは  
「住民の皆さんはどのような  
ことを願っているか」、「公民  
館が果たす役割は何か」を常

に心に留めながら、一步一歩  
進んでいきたいと考えます。  
新町議会議員さんありがとう  
ございました。

公民館長 小沢 誠

人権問題を考える

# みんな よく 仲良

松川中学校

2年3組 清水 凜

大江磯吉は、たくさんの差別をされてきたのに、自分の力でどんな学校を良くしていき、すごいと思いました。周りの人も、差別をするひどい人ばかりではなく、ちゃんと支えてくれる人たちが優しいと思いました。

どこへ行っても、そういう差別はありましたが、負けずに頑張った大江磯吉は改めてすごいと思いました。

2年1組 立花 駿介

差別を受けてひどいことをされていたにもかかわらず、ずっと差別を耐えて必死に生きて、自分が目指す教育者になろうとしたことが、すごいと思いました。何かこれから辛いことがあっても、耐えていけば絶対何かいいことがあるんだと考えさせられて、く

じけちゃいけないなと思いました。

2年1組 鈴木 萌波

明治の時代まで、実際に差別が残っていたのは、残念なことだなあと感じました。自分はそのようなことを、相手にしないように、よく考えて言葉が発したり、行動したりしていこうと改めて強く感じる事ができました。そして、みんなが良い気持ちで過ごせる場を、身近なところから多くしていけるようにしたいです。

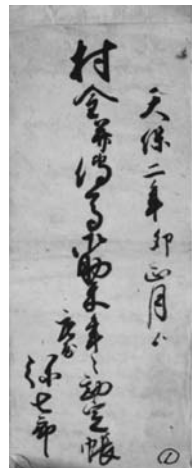
## 松川町令昔

資料館だより

第8回

「江戸時代の相互扶助」

江戸時代後半の上新井村の古文書を見ていると、「村金」<sup>むらぎん</sup>「宮金」<sup>みやぎん</sup>「囲粉」<sup>かこいもち</sup>といった文字が書かれた帳面が何冊か目につきます。このうち「村金」「宮金」の帳面は、村内でお金の必要な人が共有のお金を借り



「宮金」というのはいつごろから始まったのかわかりませんが、これも文化・文政頃から帳面があります。これはお宮(大洲七福神社)の

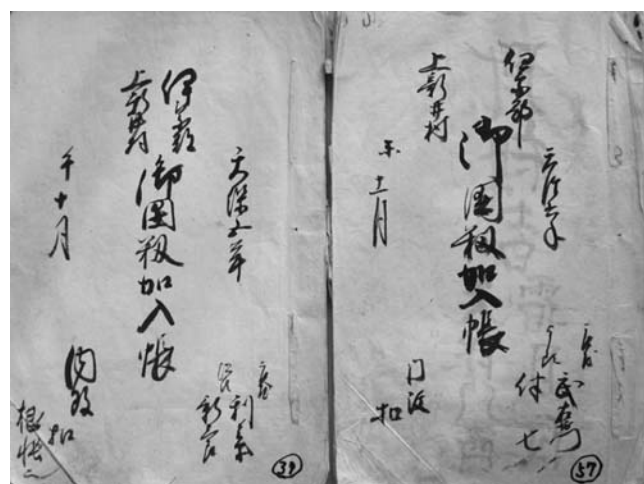


お金を必要な人々に貸し付け、利息を加えて基金を維持し、神社の必要なことに使うようにしたものです。どんなことに使ったかと言え、祭礼の時

の御神酒代や御祭りに来た高須藩竹佐陣屋の侍たちの接待費などに使っています。また神社の拝殿の屋根のふき替え代や石段の修復代などにも使っています。そして祭りを中心になつて取り仕切る若者たちからの要望により、お祭りの舞台作りや太鼓の皮の張替えなどにも使っています。もちろん神職へのお礼もここから出費されていると思います。

たり返却したりしたことを記録した帳面です。上新井村の場合「村金」というのは、領主から下げ渡された伝馬の御助米代などを積み立てておいて、凶作の時の米買入代金など緊急時に使うようにしたものです。文化・文政頃(1804~1830)から始まったもので、天保7年(1836)の天保の飢饉の時には困っている人々に貸し出しました。また毎年お金を必要な人に貸出し、その利息をとって運用し、元のお金を維持していくようにしていました。

「宮金」と書かれた古文書は、文化・文政の頃以降何冊もの帳面があります。上新井村の「囲粉」は、領主の高須藩が文政12年(1830)に緊急時に備え



松川町資料館 伊坪 達郎

寒さなんかへっっちゃらだ!! 大人も子どももスポーツしよう!!

**第30回松川町  
ダブルスバドミントン大会**

12月11日(日)に松川町町民体育館で第30回松川町ダブルスバドミントン大会が行われました。

結果は次のとおり。

〈女子 がんばる〉

優勝

桑沢 優里・松平奈々香

2位

山本 昌子・佐藤 優

3位

丸山ひとみ・北林 悠

〈女子 たのしむ〉

優勝

下沢 智子・桃沢 藤子

2位

松下 恵美・松下 睦規

3位

森山野々花・栗山 歩未

〈男子 A〉

優勝

津野 翔吉・熊谷 悠吾

2位

杉山 文康・林 貴之

3位

広沢 年彦・菅沼 直樹

〈男子 B〉

優勝

小林 駿・桜井 誠

2位

小野川幸洋・米山 正彦

3位

岡本 泰彦・福沢 智規

**町制施行60周年  
記念弓道大会**

11月23日(水)に松川町制施行60周年記念弓道大会が町の弓道場で行われました。

結果は次のとおり。

団体戦

優勝チーム

三石奈央美(飯島町)

竹村 茂明(駒ヶ根市)

福島 文雄(高森町)

準優勝チーム

大藏 壽寿(松川町)

唐沢 徳(豊丘村)

鹿角 昌平(長野市)

3位チーム

本島 正美(長野市)

村澤 勇紀(高森町)

有賀 渡(飯島町)

個人戦

優勝

岩村 拓生(松川町)

2位

鹿角 昌平(長野市)

3位

福島 文雄(高森町)

4位

福島 文雄(高森町)

**長野美術館移動展**

2017年2月4日(土)~2月12日(日)

開館時間=9:00~17:00

松川町地域交流センター えみりあ 竣工記念事業

**松川町中央公民館**

〒399-3303 下伊那郡松川町元大島3720

入場料 大人300(200)円/大学生150(100)円

高校生以下無料

※( )は20名以上の団体料金/身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は本人と付添1名まで無料

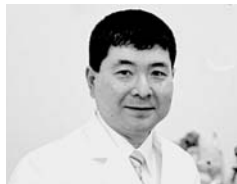


菅沼 昭彦(豊丘村)  
5位  
斎藤 静(阿南町)  
射詰賞  
竹村 茂明(駒ヶ根市)

2月25日(土) 13:00~15:00

まつかわ大学 第4講座

**子が宝なら母もまた宝  
~子育てハッピーアドバイス~**



■講師  
明橋大二氏  
(子育てカウンセラー・  
心療内科医)

■会場  
えみりあ ホール

■申込み締切  
2月24日(金)

■その他  
会員・高校生以下  
(無料)  
一般(500円)

寄贈品の紹介

布巾 21枚

「あじさいの会」様より「えみりあ」の竣工を記念して寄贈していただきました。



**家族みんなありがとう**

北小4年 片桐 和也

目をあければ

家族がいるよ

大切に 守ってくれる

家族

大切に 育てられて

ありがとう

見守ってくれて

ありがとう

見上げれば

家族に囲まれて

まぶしいな

お父さん お母さん

うんでくれて

ありがとう

**家族**

北小4年 光澤 葉路

ほくは 家族がいてくれて

うれしい

親に おこられたり

兄弟と けんかしても

やっぱり いてくれて

うれしい

だって 家族といると

楽しくて

うれしい

この人生は

楽しくて

うれしい

ほくは

この家族に生まれてきて

よかつた

# 声

## 元旦、寒稽古

### 松川中学校剣道部

#### 寒稽古を行ってみて

松川中剣道部

部長 荒川 想太

1月1日に行われた元旦稽古では、寒い中先生方や大学生や高校生などの先輩方に来ていただき、剣道クラブの小学生達も一緒に稽古をしました。僕も小学生の頃から毎年参加していましたが、今年は剣道部の部長として全体に指示をだしながら稽古に参加し

たので大変でした。部長として参加して思ったのは、今までの剣道部の部長の先輩方は、毎年同じようにやっています。ごいと思いましたが、来年は、後輩の中から部長が選ばれて僕と同じようにやらないといけないので、がんばってほしいと思います。  
最後に、今回の稽古に協力してくださった方々、保護者のみなさんに感謝したいと思います。ありがとうございます。

### まちの石仏④ 「柄山神社 秋葉山大権現、金毘羅大権現」



「火伏せの神様・秋葉山大権現」と「家内繁昌の神様・金毘羅大権現」を祀って建てられた供養塔。



#### 元旦稽古

松川中剣道部

保護者会長 荒川 誠

平成29年元旦に、毎年行われる松川中剣道部の元旦稽古を主催いたしました。例年通りのつもりでしたが、時代の流れで会場の確保に手間取りましたが、町長さんを

はじめ教育長さんにもお力をお借りして、20年続く行事を行う事が出来ました。ありがとうございます。

毎年、松川中学校剣道部OBの方々に通知や声かけを行っており、本年も約50名前後の参加者がありました。保護者会としては、お雑煮とお汁粉を準備して、先生や大学生、高校生、中学生に稽古の後のお汁粉会として、楽しんでもらいました。

毎年の行事で先生方や先輩との交流があり、他の地域の人達とも剣道を通じて交流が出来たすばらしい稽古会になったと思います。

また来年も役場や公民館の協力のもと、松川中剣道部元旦稽古をさせていただきます。

#### 2017年

あけましておめでとうございます。すばらしい晴天の三が日で平成29年がスタートしました。

さて、「今年の干支(えと)は？」と問われれば「酉(とり)」と答えるわけですが、厳密には丁酉(ひのと)りが正解だそうです。

干支とは本来、十干(甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸)と十二支(子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥)を組み合わせた60通りのよび名ですから2文字の漢字になります。

ですから「酉」と答えてもらいたければ「今年の十二支獣は？」が適切な質問となるのです。

でも現代では、干支イコール十二支という考え方が一般的になっていますよね。

公民館報新年号の表紙も酉Ⅱ鳥ということで部奈の大堤の鴨です。

情報をいただき、カメラを携え出向いたわけですが、相手は野生の鳥です。一定の距離をおき近づかせてくれません。締め切り間際の3回目、土手の影からやっと撮ることができました。鴨くんご協力に感謝します。

今年が皆さまにとって良い年になりますようにお祈りいたします。(宮下 徹)

#### 公民館報 「まつかわ」

第 639 号  
平成29年1月15日

発行所 松川町公民館  
責任者 小 沢 誠  
編集人 公民館編集部

Tel 36-2622

e-mail: c.kouminkan@matsukawa-town.jp

飯田市上郷黒田121  
印刷所 龍共印刷(株)

再生紙を使用しています。